



ばく通信 NO. 2



2010.9.1 発達障害児応援団 NPO ばく

毎日暑い日が続いていますが、皆様お元気でお過ごしでしょうか。

おかげさまで、「ばく」の活動も、3年目を迎え、9月1日現在、指導児童も40名に達し、定員いっぱいとなりました。子どもたちや保護者にとって、「ばく」がよりよい場となるよう、スタッフ一同ますます頑張ろうと思っています。

なお、皆様から頂いた賛助会費で、本年度はパソコンや、スキャナープリンターを購入することができ、指導に役立てております。皆様の温かいご支援のおかげと、スタッフ一同感謝しております。

既に継続の手続きをいただいている方もございますが、今後も「ばく」の活動に一層のご支援ご協力を賜りますよう、賛助会員の継続をお願い申し上げます。

研究発表

平成22年 8月5日(土)

臨床発達心理士全国大会(関西学院大学)

<題名>

自ら学ぶ力を育てる

—「聞く」ことの指導を通して—

渡邊静代 今泉依子



発表の様子

<概要>

「聞く」ことに弱さをもつアスペルガー症候群の児童に対して、メモをとる方略を教えた。「メモのとり方」の確認表を用い、「聞く」ことを構成している個々の行為の明確化かつ定型化をはかった結果、ワーキングメモリーを支えたり、衝動性をコントロールしたりすることに有効だった。

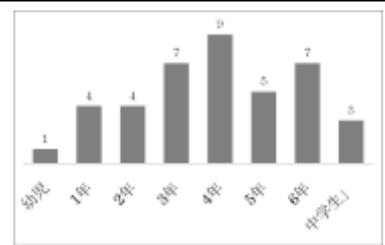
「なぜ、勉強しなくてはいけないのかわからない」と言うなど、学習意欲が低下していた本児だったが、「ばく」で勉強するのは、まだできないことをできるようにするための。」と自己理解を示すようになった。

「(学校の)先生が話していることもメモをしているよ。」とメモを日常生活においても使えるようになっている。

現状報告

平成22年 9月1日

①学習支援	幼児	3名	(計40人)
	小学生	34名	
	中学生	3名	
②発達相談	保護者	37名	(昨年度実績)
	一般相談	11名	
③スタッフ	指導担当	14名	(計19人)
	相談担当	5名	
④賛助会員		41名	



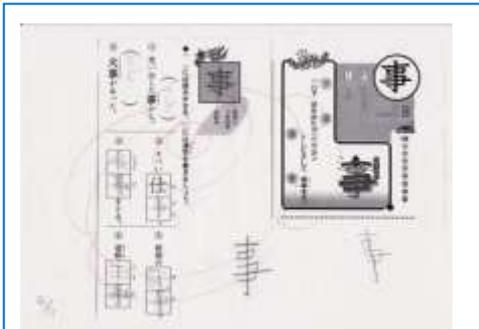
学習支援人数内訳



総会の様子

支援の実際

<特性に合わせた漢字へのアプローチ>



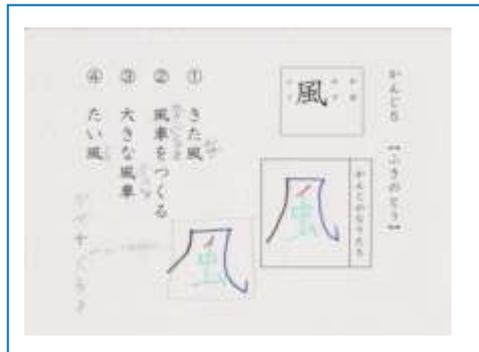
唱えることを中心とした覚え方
(言語性の高い子)

漢字の特徴と筆順を言語化し、唱えながら覚える



形を中心とした覚え方
(形を捉えるのが苦手な子)

構成要素を色別に表示し、部分を捉えやすくする。



意味を中心にした覚え方
(形を覚えるのが得意な子)

例文を書くことで、漢字の使い方を学び、語彙を増やす。